

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学習成果を図る指標としてのGPAおよび/または平均点を検証し、それらの活用方法（例えば、奨学金推薦要件、研究演習所属要件、研究科進学要件など）を改善する。	→GPAおよび/または平均点の基本統計量（平均、標準偏差など）の推移	C	C			
2. 商学部の各教員が用いている教育効果の測定方法や成績評価の仕組みを共有し、客観的な評価方法を構築する。	→指標開発活動に関する教授会報告の状況、研究会の開催件数および提言・実施状況など	B	B			
3. 単位認定のさらなる適正化を図り、MDSを積極的に提供する。	→単位認定の理由と件数、学士（商学）としての卒業生数、MDSの受入者数・修了者数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 従前より一定の成果を上げているが、2012年度からのカリキュラム改正によるさらなる効果を期待している。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 適切に行われており、特に問題はない。
その他	

### 《評価指標データ》

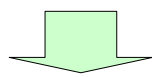
各学部における学生の進路状況  
 一括申請による教職免許取得件数および取得者実数  
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合  
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数  
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数  
 3年卒業の適用者数  
 ジョイント・ディグリーの授与者数  
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

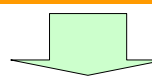
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt;評価専門委員会の評価&gt;

【学外委員】

○「目標」1の進捗評価はCのままですが、進展はないのでしょうか。学部の努力によって達成可能な目標設定であると思われませんが、実施するうえでなにか困難な事情があるのでしょうか。

【学内委員】

○「現状の説明」が簡潔すぎて、これだけではよくわかりかねます。もう少し丁寧な記述をお願いします。

○もう少し詳しく、具体的な内容や指標についても言及しつつ説明してください。これでは、現状がわかりません。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことかわかる必要があります。そのためにも、全小項目について、大学基準協会の留意事項などを参照しながら、詳しく現状説明する必要があります。この記述では、現状がまったくわかりません。課題や問題点もわかりません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成という教育理念の下で、より具体的には、ビジネスパーソンとしての高度な専門知識、ミニマム・コンピテンスと外国語能力の修得を目標に教育を行っている。この点、学部学生の進路の状況からも従来より一定の成果を上げていると評価できる。そして、これまでの伝統をさらに強化すべく、2012年度より、専門教育科目の2単位化、専門基礎科目の強化、言語教育科目の改編を行う予定である。

★ 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発については、まずは現状を知り、教員間でコンセンサスを形成すべく、試験問題と評価結果を相互に閲覧できる環境を整えている。卒業判定は学則（教育課程表）に基づき必要修得単位数を確認して実施し、教授会にて審議・承認を行っている。それによって学位授与が行われている。